

NHK アーカイブス NHK スペシャル(20111203)

番組

証言記録 日本人の戦争 第1回 アジア 民衆に包囲された戦場

戦地：日本(長野・旧南向村) 中華民国(山西省) フィリピン(ルソン島、レイテ島)

日中戦争、そして太平洋戦争。8年にわたり、300万人以上の日本人が命を落とした「昭和の戦争」は戦場から離れたふるさとの人々も一体となった総力戦でした。

長野県の伊那谷、旧南向村では、昭和12年の日中開戦以降、終戦までの間に946人が出征しました。村を離れる兵士たちは、村境の天竜川にかかる「坂戸橋」を渡って戦場に向かいました。「生きては帰れない」という気持ちを抱きつつ、迷いなく出て行く兵士たち。坂戸橋では、盛大な見送りが繰り返されました。南向村は、この橋を介して「昭和の戦争」とつながっていたのです。そして、2度と帰らぬ人が増えていきました。

一方、ふるさとから出征した兵士たちが送られるアジアの戦場では、多くの民間人を巻き込んで苛酷な戦闘が行われていました。中国北部の山西省。日本軍は毛沢東率いる中国共産党の軍隊「八路軍」のゲリラ戦法におびやかされていました。八路軍は多くの農民を民兵として戦闘に加え、戦力の勝る日本軍に対抗しました。これに対して、日本軍は、敵性ありと認めた場合、集落の焼却や住民の一部の殺害もやむを得ないという徹底した討伐を兵士に命じました。

こうした日本軍の姿勢に、住民はさらに反感を募らせていきます。

また、太平洋戦争の終盤、フィリピン・ルソン島の戦いでも、日本軍は抗日ゲリラ部隊に苦しめられます。住民が参加し、ジャングルに潜むゲリラ。日本兵は、あらゆる場所から狙われました。フィリピンでは、日本軍の占領政策で深刻なインフレや食糧不足が起き、住民の生活が破壊されたのです。

住民の敵意に包囲された戦場。ふるさとから出征した兵士の多くは、逃げ場がない中で、絶望的な戦いを強いられ、命を落としていったのです。

クレジット

放送日

2011年12月03日

9	8	7	6	5	4	3	2	1	南	向	村
下平雅夫	塩澤伊八郎	小林寧夫	桑原保松	細川周太	米山真一郎	諏訪俊	桑原保松	佐々木宗一	村長氏名		
33	33	33	47		33	31	39	33	前任 年令 退任年月 在任		
三三九	三三七	三三八	三二六	三二六	三二五	二九九	二七三	二四二	二二五		
〇二	〇一	〇二	〇二	〇三	二八	二七	三一	一〇			
9	8	7	6	5	4	3	2	1			
桑原保松	片桐政彌	小林寧夫	下平雅夫	米澤八十太郎	米山真一郎	仁科九八郎	塩澤伊八郎	仁科九八郎	助役氏名		
49	35	33	31	49	32	34	23	32	前任 年令 退任年月 在任		
五四五	三三〇	三二八	三一四	二九一	二八七	二四六	二四五	二二二	二二五		
〇四	二	〇三	一	二五	一四	四一	一三	〇〇			
9	8	7	6	5	4	3	2	1			
鹿養八藏	福井定太郎	久保田喜一郎	寺平幾次郎	米山真一郎	高坂徳風	桃澤長太郎	楯前伴造	宮澤平八郎	収入役氏名		
32	40	26	32	36	29	26	53	29	前任 年令 退任年月 在任		
四六七	四二六	四四七	四一四	三八九	三三八	三〇五	二九五	二四四	二二六		
八一	一一〇	三三	〇〇	六二	二三	一一	五一	一一			

[illegible]

26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10
宮澤 應美	寺平 幾次郎	塩澤 貞雄	高坂 徳風	古畑 久太郎 作樂村長	遠藤 藤 駐劔官署上伊那郡書記	佐々木 浩一	原田 増次郎 駐劔官署上伊那郡書記	井上 成乗	片桐 政彌	原田 増次郎 駐劔官署上伊那郡書記	塩澤 伊八郎	片桐 政彌	塩澤 伊八郎	福澤 義太郎 駐劔官署上伊那郡書記	桑原 保松	諏訪 俊
41	52	44	50	44		32		56	44		50	39	45		49	37
六八 七一	六八 二二	九六 一一	九三 七一	七二 五二		四五 五二	四三 五三	四三 五三	四二 三一	四一 三一	四〇 六六	四〇 四四	三八 六六	三五 五〇	三四 五二	明三 三〇
〇六	四七	六八	一五	二〇		五二	〇三	一三	〇二	〇一	〇〇	三〇	〇九	〇二	〇八	〇七
26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10
鹿養 八蔵	仁科 一郎	寺平 幾次郎	片桐 市郎	片桐 治佑	米山 清之丞	佐々木 浩一	下平 雅夫	桃澤 恒次郎	宮澤 平八郎	下平 雅夫	小池 稻吉	佐々木 浩一 (有給)	宮澤 喜平治	片桐 治佑	米山 清之丞 (有給)	高坂 徳風
40	45	48	43	45	31	32	43	59	45	35	46	25	32	36	23	33
六八 七一	六八 二二	一一 二二	一一 八一	四五 四四	四五 四四	四五 四四	四五 四四	四〇 七	三八 六六	三八 四	三七 三	三六 五	三六 四	三六 二	三五 四	明三 二六
〇六	四七	四一	四一	五九	〇七	〇一	〇五	〇九	二一	一二	〇〇	四一	〇一	〇二	一四	〇七
													13	12	11	10
													鹿養 貞男	福井 勝一	塩澤 侃夫	諏訪 要一
													37	41	29	52
													二〇六 集積証	二〇四	八三	八七 二八

河 南 村

5	4	3	2	1		
矢野秀吉	中原千代太郎	真壁貴経	山川増太郎	田中金衝	村長氏名	
37	39	35	48	35	昭和二年四月	昭和二年四月
三六五	三四一	三三三	二七九	二四八	昭和二年四月	昭和二年四月
二四	二〇	一七	一一	一四	昭和二年四月	昭和二年四月
5	4	3	2	1		
矢野秀吉	中原嘉六	小松長幸	中原千代太郎	北村貞麿	助役氏名	
33	34	35	31	30	昭和二年四月	昭和二年四月
三六五	二九七	二八五	二八五	二五五	昭和二年四月	昭和二年四月
一九	〇〇	〇五	〇一	一	昭和二年四月	昭和二年四月
5	4	3	2	1		
前田文彌	田中左門	田中銀彌	春日運之助	山川増太郎	収入役氏名	
40	45	23	30	35	昭和二年四月	昭和二年四月
二八五	二八五	二七三	二六四	二四四	昭和二年四月	昭和二年四月
一〇	一二	一〇	一一	一〇	昭和二年四月	昭和二年四月

33	32	31	3	29	28	27
米山 盈	仁科定吉	宮下直雄	小林信人	米山 盈	下平 勇	仁科一郎
63	51	51	53	51	53	50
二七三	二七三	二七三	二七三	二七三	二七三	二七三
五九	五九	五九	五九	五九	五九	五九
34	33	32	31	30	29	28
真島信夫	戸枝益己	湯澤清八	仁科定吉	高坂應平	小林信人	米山 盈
55	44	41	50	53	47	51
二七三	二七三	二七三	二七三	二七三	二七三	二七三
五九	五九	五九	五九	五九	五九	五九
八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇

昭和二年四月一日
自明治三十五年
自明治四十六年
日管利部名が飯島村の区域に入る。

小泉伊三郎(豊田村)
鷹野原喜平(湖東村)
長井喜左衛門(平野村)
陸川 薫(同)
△林 七六(同)
伊藤五郎右衛門(富士見村)
今井治作(豊平村)
久保田八百吉(下諏訪町)
浜 庄左衛門(四賀村)
坂本正巳(落合村)
○小口与一郎(平野村)
伊藤専一郎(湖南村)
藤森今朝平(上諏訪町)
藤森鎌吉(同)
△清水長吉(原村)
伊藤吉之丞(宮川村)
中島 浩(川岸村)
田中安太郎(泉長村)
△田中住次郎(中洲村)
小口銀之助(湊村)
小林善十郎(境村)
河西啓作(上諏訪町)

五味作平(米沢村)
△小口勘弥(長地村)
原田政吉(玉川村)
○矢崎銀之丞(永明村)
増沢喜十(下諏訪町)
△篠原重蔵(北山村)
矢沢弥作(本郷村)
野口 広(金沢村)
小沢侃二(上諏訪町)
以上定員三一名

上伊那郡
明治二四年四月当選
小野序助(小野村)
村上伝五郎(伊那富村)
千葉胤孝(中箕輪村)
西村小文吾(西箕輪村)
倉田三郎(南箕輪村)
小池新衛(伊那村)
唐木駒雄(西春近村)
小平友一郎(赤穂村)
下平邦蔵(飯島村)

竹内幸太郎(上七久保村)
佐々木 宗一(南向村)
下平鉄蔵(東伊那村)
浜島伝衛(東春近村)
中原千代太郎(富那村)
△黒河内谷八(三義和村)
北原地球治(長藤村)
岡部藤平(高遠村)
松島庄太郎(手良村)
△山口英風(東箕輪村)
池上文彦(朝日村)
小原儀十郎(中箕輪村)
代田宇源治(宮田村)
前沢二一郎(片桐村)
前沢磐雄(同)
△桑原保松(南向村)
香坂豊次郎(同)
以上定員二六名(内大地主議員六名)
明治三二年一〇月当選
倉沢清人(小野村)
吉田源一(川島村)
吉江代次郎(伊那富村)

△唐沢久雄(中箕輪村)
桑沢庄太郎(同)
重盛富士太郎(西箕輪村)
高木 誠(南箕輪村)
△小林 初(伊那町)
○小池新衛(同)
野溝五平(西春近村)
代田宇源治(宮田村)
北村茂市(赤穂村)
北村平左衛門(同)
△下平邦蔵(飯島村)
竹内幸太郎(上七久保村)
△前沢浜次郎(片桐村)
塩沢伊八郎(南向村)
竹村伝吉(中沢村)
湯沢藤重郎(伊那村)
下平幸輔(東春近村)
埋橋桑二(富果村)
伊東才八(河南村)
伊藤銀十(美和里村)
春日梅平(長藤村)
藤沢謙一郎(藤沢村)

諏訪郡

明治二四年四月当選

△金井汲治(上諏訪村)
土橋実也(下諏訪村)
△降幡倉蔵(長地村)
藤森織衛(四賀村)
米沢三十郎(落合村)
細川直行(富士見村)
岩波岩吉(中洲村)
藤森藤作(豊田村)
中村嘉重(原村)
小林良兵衛(境村)
植松勘兵衛(本郷村)
立石義雄(宮川村)
原 伴三(湖南村)
宮沢保金治(川岸村)
吉川宗次(玉川村)
小平鬼蔵(豊平村)
鮎沢 彊(永明村)
両角平右衛門(泉野村)
今井千尋(平野村)
△高木正人(北米沢村)

以上定員二〇名(大地主議員ナシ)

明治三二年一〇月当選

○土橋実也(下諏訪町)
○小松久樹(米沢村)
藤森権之助(上諏訪町)
津金彦右衛門(原村)
鮎沢治郎兵衛(川岸村)
浜 松 治(宮川村)
上田三代吉(玉川村)
金子金五郎(中洲村)
伊藤保作(四賀村)
水野武兵衛(境村)
浜半三郎(湊村)
飯田莊一郎(豊平村)
細川直行(富士見村)
△金子雄之進(湖南村)
伊藤養徳(永明村)
牛山兼造(上諏訪町)
今井千尋(平野村)
小口音次郎(同)
△米沢三十郎(落合村)
五味平吉(本郷村)

小平軍治(湖東村)
山田阪五郎(金沢村)
△中村嘉重(原村)
土橋四郎(上諏訪町)
△降幡倉蔵(長地村)
小口小次郎(下諏訪町)
△笠原五百蔵(豊田村)
宮坂作之助(上諏訪町)
伊藤和嘉蔵(泉野村)
両角彦五郎(北山村)
以上定員三〇名
明治四四年一〇月五当選
△山田栄吉(豊田村)
○山中助蔵(上諏訪町)
○平島伴蔵(北山村)
小平助七(湖東村)
金子吉之助(中洲村)
吉沢壯吉(下諏訪町)
小林勘治郎(富士見村)
原忠三郎(湖南村)
伊藤幾蔵(泉野村)
山口宗元(上諏訪町)

△小口与一郎(平野村)
中島 浩(川岸村)
△丸茂源次郎(玉川村)
高橋睦示(原村)
小林伊重郎(境村)
小池増三郎(米沢村)
長崎寿馬吉(下諏訪町)
笠原福太郎(平野村)
百瀬常次郎(四賀村)
高木卯之助(平野村)
林近三郎(長地村)
今井惣三郎(豊平村)
△小池元蔵(金沢村)
△大和又蔵(上諏訪町)
平林市平(同)
横内敬一郎(宮川村)
矢沢愛蔵(落合村)
浜 半平(湊村)
柿沢鶴之助(永明村)
水野卯之助(本郷村)
以上定員三〇名
大正八年一〇月当選

衆議院議長 小山松壽

内閣總理大臣公爵近衛文磨殿

衆議院書記官長 田口弼一

意見書

請願文書表第七七八號

滿洲農業移民計畫助成ニ關スル請願 長野縣上伊那郡南向村長仁科一郎外六十名呈

出(紹介議員野溝勝君)

右請願ノ要旨ハ日滿一體不可分關係ノ強化ニ依ル東洋平和ノ確立ト農村經濟更生ノ爲長野縣上伊那郡南向村ハ昭和七年滿洲農業移民計畫ヲ樹立シ五箇年間百五十戸移植ノ分村移民計畫ヲ確立著々實績ヲ收メツツアリ然レトモ移民者ノ負債、家政整理ハ頗ル困難ナル問題ニシテ之ニ要スル村、部落或ハ五戸組合ノ經濟上ノ負擔ハ莫大ナルヲ以テ之カ解決ニ舉村苦慮シツツアル狀態ナリ而シテ之獨リ同村ノミナラス該計畫ニ邁進セムトスル全國農山漁村民ノ苦衷トスル所ト信ス依テ政府ハ移民國策遂行ノ見地ヨリ(一)移植民助成費増額(二)全戸移民ノ家政負債整理ノ助成(三)村又ハ産業組合ニ對スル該事業費助成等ノ諸點ヲ實現

(請願特別報告第四三二號)

「アジア歴史資料センター」(A14081281400)

セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

昭和十三年 二月 十日

三 二十五

衆議院議長 小山 松壽

内閣總理大臣公爵近衛 文麿殿

衆議院書記官長 田口 弼

意見書

請願文書表第七八六號

(請願特別報告第四三七號)

肇國ノ紀元ニ關スル請願

廣島縣加茂郡川尻町小學校長高藤佐一外十一名呈出(紹

介議員山道襄一君)

右請願ノ要旨ハ人皇ノ祖 神武天皇ハ神代ノ祖 天照皇大神ト異姓ノ帝王ニ在ラセラレス又其ノ宗系ヨリ分レテ別ニ一國ヲ立テセラレタルカ如キ副系ニモマシマサス故ニ我カ大日本帝國皇統カ天祖 天照皇大神ヨリ神代人皇ヲ通シテ萬世無窮ニ互ラセ給フコトハ何人モ疑ヒナキ所ナリ依テ萬世一系ノ皇統御代數ハ皇統ヲ萬世ニ垂レサセ給ヒタル皇元祖天照皇大神ヨリ神代人皇ヲ通シテ數ヘ奉ルコトセラレ而シテ天壤無窮ノ皇運ハ天地開闢ノ初ヨリ保有シ給ヘル事實ヲ明示シ肇國ハ世界ノアラユル古國ノ其レヲ超越セル事實ヲ表示セラレタシト謂フニ在リ

七三二一

自元祿書

長野縣上田郡新田村五郎八郎地
平民書

塩澤 劉 義妹

明治八年三月廿九日生
明治九年三月廿九日生

明治九年三月廿九日生
明治九年三月廿九日生

右
記
教
法

明治九年三月廿九日生

長野縣上田郡新田村五郎八郎地
平民書